

文化人類学

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター
文化人類学特論Ⅱ	文化人類学特論Ⅱ	2	BORET USAGE P ENMELLEN BORE T SEBASTIEN	後期 火曜2限
文化人類学研究演習Ⅰ	文化人類学の視野と思考	2	越智 郁乃	前期 月曜3限
文化人類学研究演習Ⅱ	文化人類学研究の民族誌 精読	2	川口 幸大	後期 金曜5限
文化人類学研究実習Ⅰ	文化人類学の理論の応用 と研究の遂行	2	川口 幸大	前期 金曜3限、 金曜4限
文化人類学研究実習Ⅱ	文化人類学の理論の応用 と研究の遂行	2	川口 幸大	後期 金曜3限、 金曜4限

科目名：文化人類学特論Ⅱ

曜日・講時：火曜 2 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：BORET USAGE PENMELLEN BORET SEBASTIEN

コード：LM22203, 科目ナンバリング：LGH-CUA602J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：文化人類学特論Ⅱ

2・授業の目的と概要：本授業は、東北アジア諸国および関連地域の社会組織に対する人類学的アプローチを議論する。日本、中国、その他の近隣諸国の災害文化を背景にする。扱われる主題は、いわゆる「自然」災害と「人為的」災害の両方の災害に関連するものである。講義においては、社会的連帯、回復力、脆弱性、コミュニティなどの概念が取り上げられる。学生の数に応じて講義の後にグループ討論を実施し、最終的に全体の結論を導きます。

授業は全て Google Classroom のオンデマンドで行います。授業名は LB169 文化人類学各論です。コードを使

3. 学習の到達目標：本授業を通じて、受講生は以下の能力を身につけることを目標とする。

1. 脆弱性、レジリエンス、社会的連帯、宗教、記憶、気候変動など、災害研究に関連する主要な人類学的概念を理解し、説明できるようになる。
2. 東北アジアおよび近隣地域（インドネシアを含む）における自然災害および人為的災害に対する社会的対応を分析できるようになる。
3. 文化的・歴史的・宗教的文脈が、災害の経験、復興過程、長期的な社会変容にどのように影響を与えるかを批判的に検討できるようになる。
4. 現代の災害関連課題に対して人類学的視点を

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- I. コースの概説
- II. 「新たな常態」としての災害
- III. 災害への人類学的アプローチ
- IV. 脆弱性の理解
- V. 社会的弱者の災害体験
- VI. 災害リスク軽減のためのレジリエンス
- VII. 気候変動、適応、脆弱性
- VIII. 災害時の社会的連帯
- IX. 被災コミュニティの移住と避難
- X. 死、悲嘆、追悼 (1)
- XI. 死、悲嘆、追悼 (2)
- XIII. 宗教と災害
- XIV. 東日本大震災と仏教
- XV. 災害観光、追悼施設、語り部

5. 成績評価方法：各講義後の小テスト (60%) とミニエッセイ (40%)

6. 教科書および参考書：教科書がなし。PDF 資料を配布しますので、各講義前に必ずお読みください。参考図書：スザンナ・M. ホフマン, アンソニー オリヴァー=スミス (2006) 災害の人類学

7. 授業時間外学習：読書 (論文とチャプター) を通読した上でメモを書き、講義ノートを作成する。次の講義に参加する前に、個人で、または他の学生と一緒に協力して復習する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
学修の到達目標は、災害の文化的・社会的側面を理解していただくことです。

9. その他：

授業は全て対面で行います。

科目名：文化人類学研究演習 I

曜日・講時：月曜 3 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：越智 郁乃

コード：LM11304, 科目ナンバリング：LGH-CUA605J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：文化人類学の視野と思考

2・授業の目的と概要：文化人類学についての理論および民族誌的研究を精査することで、主要な概念と関心の動向を検討する。本年のテーマ「イスラームの人類学」。

3. 学習の到達目標：文化人類学の研究動向を体系的に理解し、自身の問題関心を展開させる。最終的には、自分の研究主題についての文献リストと主要文献のレビューを作成する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 谷憲一『服従と反抗のアーシューラー：現代イランの宗教儀礼をめぐる民族誌』 1
3. 谷憲一『服従と反抗のアーシューラー：現代イランの宗教儀礼をめぐる民族誌』 2
4. 谷憲一『服従と反抗のアーシューラー：現代イランの宗教儀礼をめぐる民族誌』 3
5. 谷憲一『服従と反抗のアーシューラー：現代イランの宗教儀礼をめぐる民族誌』 4
6. 谷憲一『服従と反抗のアーシューラー：現代イランの宗教儀礼をめぐる民族誌』 5
7. 椿原敦子『グローバル都市を生きる人々：イラン人ディアスポラの民族誌』 1
8. 椿原敦子『グローバル都市を生きる人々：イラン人ディアスポラの民族誌』 2
9. 椿原敦子『グローバル都市を生きる人々：イラン人ディアスポラの民族誌』 3
10. 椿原敦子『グローバル都市を生きる人々：イラン人ディアスポラの民族誌』 4
11. 椿原敦子『グローバル都市を生きる人々：イラン人ディアスポラの民族誌』 5
12. 多和田 裕司 『マレー・イスラームの人類学』 1
13. 多和田 裕司 『マレー・イスラームの人類学』 2
14. 多和田 裕司 『マレー・イスラームの人類学』 3
15. 多和田 裕司 『マレー・イスラームの人類学』 4

5. 成績評価方法：発表[50%]、出席と議論[50%]

6. 教科書および参考書：授業中に指示する。

7. 授業時間外学習：毎回、課題に沿ったレジюмеを作成する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：文化人類学研究演習Ⅱ

曜日・講時：金曜 5 限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：川口 幸大

コード：LM25502, **科目ナンバリング：**LGH-CUA606J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：文化人類学研究の民族誌精読

2. 授業の目的と概要：大学院レベルの文化人類学研究の民族誌を精読して、自らの研究の遂行に活用する。

3. 学習の到達目標：修論あるいは博論という自身の民族誌を執筆する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 インTRODクシヨン
- 2 研究構想の発表
- 3 民族誌の精読①
- 4 民族誌の精読②
- 5 民族誌の精読③
- 6 民族誌の精読④
- 7 民族誌の精読⑤
- 8 自身の民族誌の中間報告
- 9 民族誌の精読⑥
- 10 民族誌の精読⑦
- 11 民族誌の精読⑧
- 12 民族誌の精読⑨
- 13 民族誌の精読⑩
- 14 民族誌の発表①
- 15 民族誌の発表②

5. 成績評価方法：授業での発表・発言 (50%) + 民族誌の執筆 (50%)

6. 教科書および参考書：授業中に指示する

7. 授業時間外学習：毎回のテキストの予習、発表準備

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：文化人類学研究実習 I

曜日・講時：金曜 3 限、金曜 4 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：川口 幸大

コード：LM15305, 科目ナンバリング：LGH-CUA608J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：文化人類学の理論の応用と研究の遂行

2. 授業の目的と概要：文化人類学の古典から最新までの研究についての知識を獲得し、自分の研究を進展させていく

3. 学習の到達目標：文化人類学の主要かつ先端の理論についての議論を行い、それらを元に自身の研究を発展させる。理論の学習と研究の進展の成果に基づき、最終的には修士論文の研究計画書の草稿を完成させる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 インTRODクシヨン
- 2 研究構想の発表
- 3 人類学の萌芽
- 4 進化主義①：モルガン
- 5 進化主義②：タイラー
- 6 文化相対主義とアメリカの人類学①：ボアズ
- 7 文化相対主義アメリカの人類学②：ベネディクトとミード
- 8 機能主義①：ラドクリフ＝ブラウン
- 9 機能主義②：マリノフスキー
- 10 構造主義①：レヴィ＝ストロース『親族の基本構造』
- 11 構造主義②：レヴィ＝ストロースの神話理論
- 12 象徴人類学：ダグラスとターナー
- 13 解釈人類学：ギアツ
- 14 研究計画の発表①
- 15 研究計画の発表②

5. 成績評価方法：授業での発表・発言（50%）＋研究計画書（50%）

6. 教科書および参考書：授業中に指示する

7. 授業時間外学習：毎回のテキストの予習、研究の進展状況の発表準備

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：文化人類学研究実習Ⅱ

曜日・講時：金曜3限、金曜4限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：川口 幸大

コード：LM25306, 科目ナンバリング：LGH-CUA609J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：文化人類学の理論の応用と研究の遂行

2. 授業の目的と概要：これまでに学んできた文化人類学の知識を展開させ、自分の研究を進展させていく

3. 学習の到達目標：文化人類学の主要かつ先端の理論についての議論を行い、それらを元に自身の研究を発展させる。理論の学習と研究の進展の成果に基づき、最終的には修士論文の研究計画書を完成させる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 インTRODクシヨN
- 2 研究構想の発表
- 3 ジェンダー
- 4 文化人類学批判
- 5 構築主義
- 6 公共人類学
- 7 移動
- 8 存在論
- 9 ANT
- 10 マルチスピーシーズ
- 11 文化人類学の今後
- 12 まとめ
- 13 総合討論
- 14 研究計画の発表①
- 15 研究計画の発表②

5. 成績評価方法：授業での発表・発言（50%）＋研究計画書（50%）

6. 教科書および参考書：授業中に指示する

7. 授業時間外学習：毎回のテキストの予習、研究の進展状況の発表準備

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：